

V 令和3年度島根県教育センターとの連携講座

分類	講座名 ～サブタイトル～	番号	期日・会場・定員	幼	小	中	高	特	対象者	内容	外部講師 (講師の所属はR2年度のもの)	講師紹介	
教科等	小学校算数科教育講座 ～数学的活動と算数授業改善～	113a	【東部】10月22日(金) 出雲市立伊野小学校 30名		○				小学校・義務教育学校(前期課程)及び特別支援学校教員(小学校数理解採用4・5年目の数学科免許を有する教諭は必修)	○説明 「島根県の算数科教育の現状」 ○講義・演習 「数学的活動と算数授業改善」 ○授業参観 各校における算数科の公開授業 ○研究協議 数学的活動と算数授業改善について	島根大学教育学部 講師 下村 岳人	研究テーマは、算数科の話し合い活動における「論点を整理する力」を育成する学習指導モデルの開発。	
		113b	【西部】10月15日(金) 津和野町立日原小学校 30名								島根県立大学人間文化学部 教授 齊藤 一弥	中央教育審議会教育課程部会算数・数学ワーキンググループ委員その他文部科学省関連の委員を多数務める。	
	小学校理科教育講座 ～子どもの主体的な問題解決を実現し、資質・能力を育成する理科の授業づくり～	1136	9月9日(木)～9月10日(金) <2日間> 1日目(9/9) 島根大学教育学部附属義務教育学校前期課程 2日目(9/10) 島根県教育センター 25名		○				小学校・義務教育学校教員(数理解採用4年目研修及び5年目の対象者で、理科の免許を有する者は必修)及び特別支援学校の教員	○講演 子どもの主体的な問題解決を実現し、資質・能力を育成する理科の授業づくり ○授業参観 島根大学教育学部附属義務教育学校前期課程理科授業公開 ○実習 基礎的な観察・実験 ○演習 子どもの主体的な問題解決を実現し、資質・能力を育成する理科の授業づくり ○振り返り 研修内容を実践に生かすために	島根県立大学松江キャンパス 人間文化学部保育教育学科 教授 高橋 泰道	島根県公立小学校教諭、島根大学教育学部附属小学校教諭・教頭、広島文教女子大学人間学部初等教育学科教授を経て現職。令和元年度中国地区小学校理科教育研究大会松江大会では全体指導講師を、令和元年度中国地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究大会出雲大会では指導講師を務めた。現在、理科教育を中心に、生活科、総合的な学習の時間、幼小接続、自然保育、ICT活用、小学校プログラミング教育等の実践研究に取り組んでいる。	
	中学校理科教育講座 ～科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する理科の授業づくり～	1151	11月19日(金) 島根県教育センター 30名			○			中学校・義務教育学校後期課程・特別支援学校(中学校部)の理科担当教員	○講義 平成29年告示の学習指導要領を踏まえた指導と評価の一体化に関する理論と実践について～子ども達が自身の力で人生を切り拓く際に必要な資質・能力を育成するために～ ○演習 平成29年告示の学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の計画づくり ○振り返り 研修内容を実践に生かすために	岡山理科大学教職支援センター 教授 藤本 義博	岡山大学教育学部附属中学校文部科学教員教諭、岡山県情報教育センター指導主事、国立教育政策研究所学力調査官・教育課程調査官を経て、現職。理科教育、教育工学及び教育課程や学力調査に基づいた教師教育の実証研究に取り組んでおられる。	
	「総合的な学習の時間・総合的な探究の時間」講座 ～探究的な学習の過程、探究の過程の質的な充実を目指して～	1205	5月28日(金) 島根県教育センター 30名		○	○	○		小学校・中学校・義務教育学校・高等学校及び特別支援学校の教員	○講義 探究的な学習を実現する授業づくりのポイント ○演習 探究的な学習の過程の質的な充実を目指した授業づくり	関西大学総合情報学部 教授 黒上晴夫	大阪大学助手、金沢大学助教授を経て現職。専門は教育工学。中央教育審議会教育課程部会「生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ」の委員等を務める。著書に「シンキングツール～考えることを教えたい～」 「こうすれば考える力がつく! 『中学校思考ツール』」等	
	特別活動講座 ～子どもが変わる・教師が変わる 学級会の魅力～	1063	10月8日(金) 西部小学校又は浜田合同庁舎 40名		○	○			小学校・中学校・義務教育学校及び特別支援学校の教員	○授業研究 授業公開(授業ビデオ視聴)・研究協議 ○実践発表 中学校の実践 ○講義 特別活動の充実で子ども・学級・学校が変わる ○振り返り	國學院大学人間開発学部 教授 杉田 洋	小学校教諭、教育委員会指導主事、文部科学省初等中等教育局教科調査官・同視学官を経て現職。エジプト・日本教育パートナーシップに基づきTOKKATSUの導入に取り組む。「特別活動で、日本の教育が変わる」(小学館)ほか著書多数。	
	小学校音楽科教育講座 ～学習指導要領の趣旨を踏まえた音楽科の授業のあり方～	1137a	【東部】9月17日(金) <午後>島根県教育センター 40名		○				小学校及び義務教育学校(前期課程)・特別支援学校(小学部)の教員	○講義 学習指導要領の趣旨を踏まえた音楽科の授業のあり方 ○演習 講義を踏まえた授業づくりの演習	島根大学教育学部 教授 藤井浩基(音楽科教育専攻)	1999年より島根大学教育学部で音楽教育学、音楽学関連授業を担当。これまでに『小学校学習指導要領解説音楽編』(2017年)作成協力者ほか国立教育政策研究所委嘱の各種委員、日本音楽教育学会常任理事などを務める	
		1137b	【西部】9月16日(木) <午後>浜田教育センター 28名										
	中学校技術教育講座 ～目指せ、指導と評価の一体化!～	862	6月30日(水) オンライン研修(web会議システムを利用、鳥取から参加) 20名			○			中学校・義務教育学校後期課程及び特別支援学校の技術分野を担当する教員	○講義 「指導と評価の一体化」と「ICT活用」について(予定) ○振り返り	(オンラインでの参加) 文部科学省 初等中等教育局視学官 教育課程課教科調査官 情報教育・外国語教育課教科調査官 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 上野 耕史	栃木県教育委員会事務局義務教育課指導主事を経て現職。	
	中・高等学校音楽科教育講座 学習指導要領の趣旨を踏まえた音楽科の授業のあり方 ～指導と評価の一体化を図った授業展開の工夫～	781	7月1日(木) 浜田教育センター 40名			○	○		中学校及び義務教育学校(後期課程)・高等学校・特別支援学校(中学校部・高等部)の教員	○講義 学習指導要領の趣旨を踏まえた音楽科の授業のあり方～指導と評価の一体化を図った授業展開の工夫～ ○演習 講義を踏まえた授業づくりの演習	文部科学省 初等中等教育局教育課程課教科調査官 河合紳和	静岡県公立高等学校教諭を経て、平成2年4月より現職。学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者として、高等学校学習指導要領(平成30年度告示)の改訂及び解説の作成に携わる。	
小・中学校社会科教育講座 ～「主体的・対話的で深い学び」につながる中学校社会科の授業づくりと評価～	1250	8月20日(金) 浜田教育センター 40名			○			令和3年度は中学校・義務教育学校後期課程及び特別支援学校(中学校部)の社会科担当教員	○講義 思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業づくり ○演習 問題解決的な学習を充実させるための授業構想 ○振り返り	広島大学 准教授 永田 忠道	国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部研究員、大分大学講師・助教授・准教授を経て現職。専門は教育学(社会科教育学)。全国社会科教育学会常任理事、国立教育政策研究所「教育課程実施状況調査問題作成委員会(中学校地理)」研究協力者などを務める。著書に「平成29年改訂中学校教育課程実践講座社会」(共著 ぎょうせい 2018年) 「平成29年版学習指導要領改訂のポイント小学校・中学校社会」(共著 明治図書 2017年)等。		

分類	講座名 ～サブタイトル～	番号	期日・会場・定員	幼	小	中	高	特	対象者	内容	外部講師 (講師の所属はR2年度のものを)	講師紹介
教育課題	学校図書館を活用した授業改善講座 ～学校図書館を活用して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指す～	1235	11月18日(木) 浜田教育センター 40名	○	○	○	○	○	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教員(ただし、希望者多数の場合は小学校・義務教育学校前期の教員を優先する。)	○講義 学校図書館を活用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指す ○演習・協議 ○振り返り	放送大学客員准教授・ 関西大学 非常勤講師 塩谷 京子	静岡市立小学校教諭・司書教諭、関西大学初等・中等部専任教諭を経て、現在、放送大学客員准教授、関西大学非常勤講師として司書教諭資格取得の講座を担当。専攻は学校図書館論。
	子ども支援実践講座 ～学校と福祉の連携による子ども支援～	1253	9月17日(金) あすてらす 30名	○	○	○	○	○	小・中学校及び義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教職員	○講義Ⅰ 学校と福祉の連携の必要性について ○講義Ⅱ 福祉と連携した子ども支援のあり方 ○情報交換 ○振り返り	県内講師招聘予定(調整中)	
生徒指導・ 教育相談・ 特別支援教育	生徒理解と支援講座 ～個や集団への理解を深め、子どもへのかかわりを見なおしたいあなたへ～	1042	9月10日(金) 松江合同庁舎 70名	○	○	○	○	○	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員	○講義・演習 ○振り返り	桃山学院教育大学人間教育学科 教授 松久 真実	堺市立小学校教諭、堺市教育委員会特別支援教育課指導主事、プール学院大学教育学科准教授などを経て現職。専門分野は特別支援教育、学校心理学、教師教育、学級経営。著書に「発達障害の子どもとあったかクラスづくりー通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」(共著 明治図書)「発達障害の子どもとあったか仲間づくりーいじめ撲滅」(単著 明治図書)「人的環境のユニバーサルデザイン」(共著 東洋館出版)他
	児童理解と支援講座 ～子どもの願いに寄り添うための教師の基本姿勢～	1068b	10月1日(金)<1日> オンライン(鳥取から参加) 40名	○	○	○	○	○	小・中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教職員	○講義・演習等 通常の学級等における特別な支援を必要とする子どもの困難さの理解と支援について ○振り返り	大阪医科大学LDセンター 奥村智人	オプトメトリスト、特別支援教育士スーパーバイザー。子どもの視覚能力の評価、視覚トレーニングを実施するとともに、視覚発達と学習についての研究を行っている。著書「『見る力』を育てるビジョン・アセスメント<HAVES>」(Gakken)他多数。
	教職員のかかわる力を高める実践講座 ～子どもや保護者への対応にお困りの方、よりよくしたい方へ～ ～若手教職員へのよりよい支援をお考えの方へ～	1100	11月5日(金) 島根県教育センター 30名	○	○	○	○	○	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員	○演習 ○振り返り	県内講師	
	特別支援教育専門講座 ～読み書きに困難さのある子どもの理解と支援～	1215	9月9日(木) 出雲合同庁舎 90名	○	○	○	○	○	小・中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教職員	○講義・演習 読み書きに困難さのある子どもの理解と支援(仮)	廿日市市教育委員会 山田 充	大阪府堺市で通級指導教室を20年担当、現在は廿日市市教育委員会特別支援教育アドバイザー、堺市教育委員会専門家チームにも所属。主な著書は「学びにくい子への国語・算数つまずきサポート」(明治図書)「子どもの達成感を大切にする通級の指導」(かもがわ出版)等。
	特別支援学校・特別支援学級における授業づくり講座 ～子どもの将来を見据え「今」学校で取り組むこと～	1143	10月1日(金) 浜田教育センター 50名	○	○	○	○	○	小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員	○講義1 「学校における教育支援の現状と課題」 ○講義2 「生活や学習意欲を引き出すための授業づくりや授業の在り方」	関西国際大学 教授 花熊暁	愛媛大学教育学部教授、附属特別支援学校校長を経て、平成29年より現職。長年、特別な支援を必要とする子どもや保護者の支援、教員養成にかかわり、豊富な実践を重ねられている。現在、日本LD学会常任理事、特別支援教育士資格認定協会理事長などの要職にも就き、特別支援教育に関する最新の動向も踏まえた講演で定評がある。著書に『ユニバーサルデザインと合理的配慮でつくる授業と支援』など。
	よりよい関係づくり実践講座 ～教育相談・生徒指導の実践力を高める～	1222	7月29日(木)～30日(金)<2日間> 浜田教育センター 20名	○	○	○	○	○	幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員	○講義 学校現場に活かす教育相談・生徒指導 ○演習 教育相談・生徒指導の実践力を高める体験的研修(グループ別に実施) 「カウンセリング的なコミュニケーション力」についてのグループ 「子どもとかわる力」についてのグループ 「保護者とかわる力」についてのグループ 「事例から学ぶ力」についてのグループ ○振り返り 研修内容を実践に生かすために	スクールカウンセラー 稲田 彰(講義・演習) スクールカウンセラー 森田 清(演習)ほか県内教職員・指導主事等	<稲田 彰> 日本学校教育相談学会名誉顧問。同学会認定カウンセラー。豊富な臨床経験を基に、講演会や各種研修会等でも活躍。 <森田 清> 日本学校教育相談学会会員。同学会認定カウンセラー。各種研修会等でも活躍。
	オンラインでもデキル！学級作り仲間作り講座 ～新しい学校生活様式の中での学級づくりを演習を通して考える～	1254	6月23日(水) 浜田教育センター 30名	○	○	○	○	○	小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教職員	○講義 講師によるオンラインを活用してできる仲間づくりの方法などの理論を学ぶ ○演習 参加者による実際のワークなどの演習 ○協議、振り返り	(株)AL&AL研究所 代表取締役 小林昭文	埼玉大学理工学部物理学科卒業。埼玉県立高校教諭として25年間勤務して2013年3月に定年退職。高校教諭として在職中に、カウンセリング、コーチング、エンカウンターグループ、メンタリング、アクションラーニングなどを学び、それらを活用して高校物理授業をアクティブラーニング型授業として開発し成果を上げた。